AITC
あおもりの未来
技術でサポート

野菜研究所ニュース

№15　2016.6
青森県産業技術センター　野菜研究所

＜掲載記事＞

○にんにく高品質安定生産技術研修会
○ナガイモ 園試系23号」現地で評価
○イモグサレセンチュウ研究連携会議
○シードテープに封入された種用ムカゴ

にんにく高品質安定生産技術研修会

5月 24日、当研究所において、県関係機関、JA全農あおもり、各農協から計 48名の参加を得て、恒例のにんにく高品質安定生産技術研修会が開催されました。平成 28年産ニンニクについて、生育状況や今後の管理についての理解を深めていただくための指導者向けの研修会を行いました。

当研究所新藤研究管理員が、病害虫防除管理について解説し、青山研空員がイモグサレセンチュウについて、今主任研究員がニンニク乾燥のポイントについて説明しました。昨年に続き、今年も収穫時期が早まる見込みが示されました。

作況ほ場前で説明を聴く参加者

ナガイモ「園試系２３号」を現地で評価

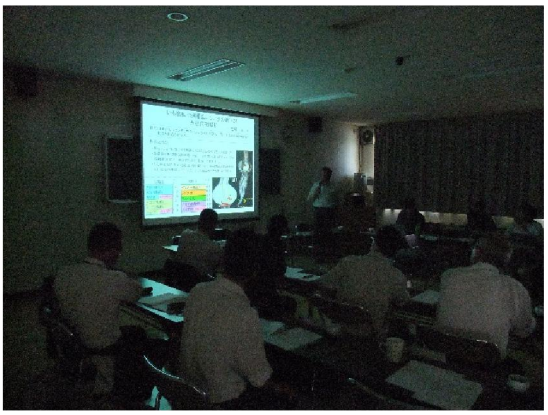
野菜研究所が育成した長大系ナガイモ 園試系 23号」を東北町のほ場で、栽培適応性を評価しています。

今後は、生育状況を観察しながら、内部品質調査や留学生に協力いただき、食味評価を実施することにしています。

5月 20日 :東北町現地ほ場の植付

イモグサレセンチュウ研究連携会議
（ニンニクプロジェクトチーム活動）

5月 23日野菜研究所においてニンニクイモグサレセンチュウ対策を共同で研究する大学などの研究者を迎え、これまでの成果と今後の研究方針について検討しました。プロジェクトチームは 4月の種子ほ場審査に続く共同の活動となりました。出席者は先端をゆく濃密な研究内容を聴くことができたとともに、進むべき研究方向を確認しました。



説明を聴くプロジェクトチームメンバーら

シードテープに封入された種用ムカゴ

研究所ではムカゴを左の写真のように、等間隔にテープにして、植付作業の省力化と高速化を図って人手不足を補っています。テープは植付け後、土壌中で溶けて無くなる、無害の素材を使用しています。

ニンニク土壌処理剤の効果を明らかに
（ニンニクプロジェクトチーム活動）

掘り取ったニンニク

6月 20日 試験地ほ場調査株の収穫

野菜研究所においてニンニクイモグサレセンチュウ、黒腐菌核病、紅色根腐病対策として、土壌処理剤の効果を明らかにする研究に取り組んでいます。今回は、プロジェクトチームである農林総合研究所とともに、掘り取りと調査を行いました。今後も、共同で調査することとし、研究のすすむべき方向を確認しあいました。

ながいも栽培技術研修会

6月 27日、当研究所において、県関係機関、JA全農あおもり、各農協から計 51名の参加を得て、ながいも栽培技術研修会が開催されました。平成 28年産ナガイモについて、生育状況や管理のポイントについて指導者向けの研修会を行いました。

当研究所からは町田研究員が作況の生育について、新藤研究管理員が、病害虫防除管理について解説し、鎌田栽培部長が品質低下要因と適正施肥について説明しました。萌芽の揃いも良く、適度な降雨により土壌水分も充分あり、生育が順調であることが示されました。